

追跡評価の実施方法の検討-ヒアリングおよびアンケート調査のスケジュール-

調査方法	試行フローに対応する項目	目的	調査対象	調査時期	実施内容
ヒアリング調査 (テーマの選定等)	PD ヒアリング ①	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目案に対する感触を伺う 課題評価の試行にあたって情報収集すべき研究テーマを選定 	対象3課題のPD	11月中旬	<p>事務局で作成した評価項目案を提示し、以下に関して意見・感触を聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査項目として示したもの以外に含めた方がよいと思う項目、不要と思う項目 調査項目をPDで把握することができるか（難しい場合には誰を対象に調査すればよいか） PDが認識している、評価の試行にあたり情報収集すべき各課題の中心的な研究テーマについて
アンケート調査 (課題評価)	アンケート (テーマごと)	<ul style="list-style-type: none"> 課題評価に必要な情報（社会実装や研究開発の進捗）を収集 	対象3課題の主要研究テーマの研究責任者	12月下旬～ 1月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 各課題の評価の試行を行うにあたり、必要となる情報を収集するためのアンケート調査を実施 アンケート結果をヒアリング調査に反映
ヒアリング調査 (課題評価)	ヒアリング (テーマごと) PD ヒアリング ②	<ul style="list-style-type: none"> 課題評価に必要な情報（主にマネジメント等の面）を収集 SIP制度に対する所感を伺う 	対象3課題のPDおよび主要研究テーマの研究責任者	12月下旬～ 1月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 主にマネジメント等の面について、各課題に対してヒアリング調査を実施し、課題評価の試行に必要な情報を聴取



戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

4. 課題評価の試行



課題評価の試行-評価結果の一例：エネルギーキャリア（２） -

エネルギーキャリアの課題のストーリーとして、総括、成果の総論、マネジメントの総論をそれぞれ以下のように示す。

※現在の研究開発状況に関わるため非公開



戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

5. 制度評価の検討

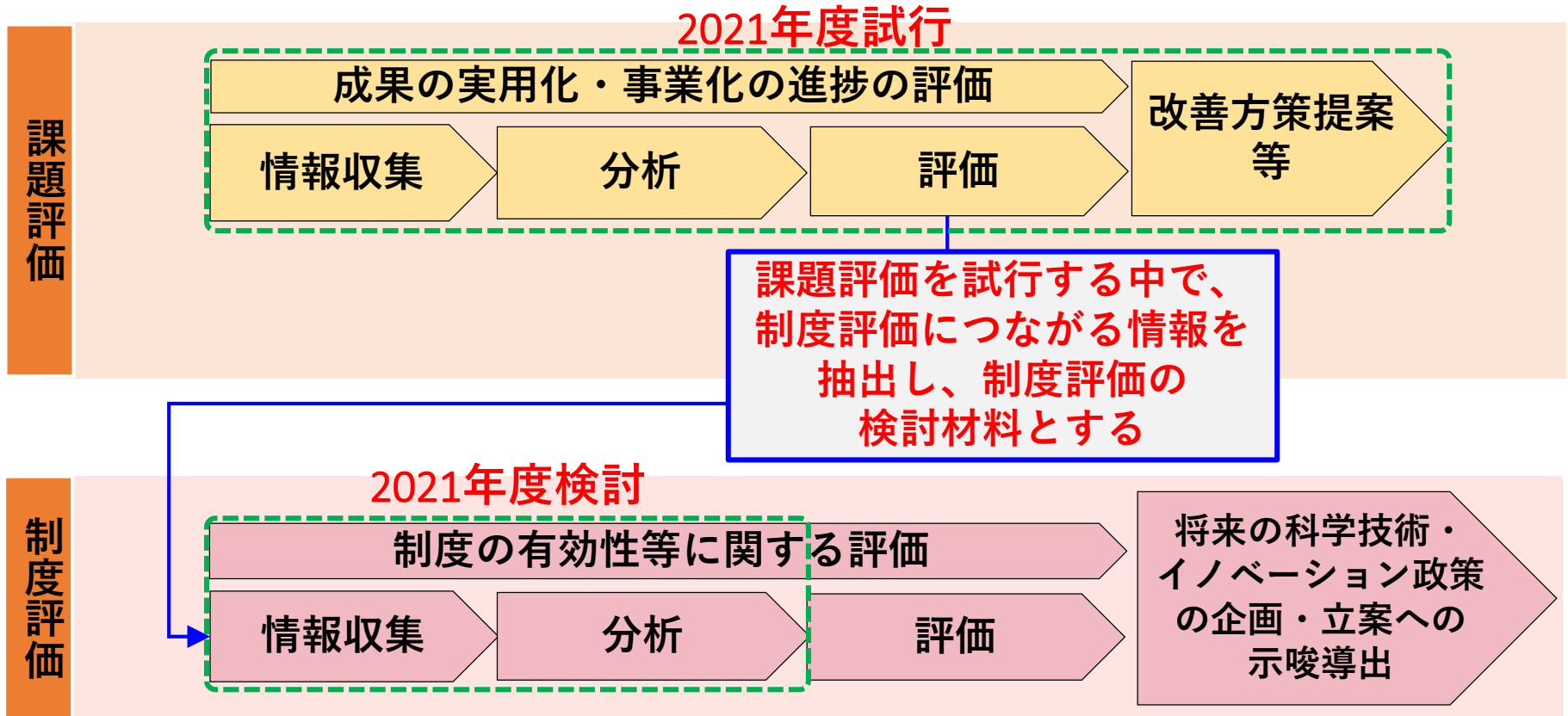


制度評価の検討-フロー図-

- 課題評価を実施し、次に課題評価で得られた情報を活用しながら制度評価を実施

【追跡評価の実施フロー図】

課題評価・制度評価の実施にあたっては、運用指針を踏まえ全体像として以下のフローを想定。



制度評価の検討-実施するための観点-

分類として「①関係府省からの研究課題に対するサポート」と「②社会実装に向けた体制の構築」を設定し、課題評価の試行から得た情報およびSIP1期の制度についての所感を踏まえつつ、制度評価にあたっての観点案を検討した。

①関係省庁からの研究課題に対するサポート

②社会実装に向けた体制の構築

制度評価にあたっての観点案

※現在の研究開発状況に関わるため非公開



戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

6. 追跡評価手法に関する改善すべき点



課題評価

- 「改善方策提案等」までが今年度試行の範囲に含まれているが、課題の改善案の提案と、改善に相当するようなものを制度面に反映させていくことが重要。今年度の試行も、改善方策の提案にどう反映させるのか、改善提案の形にまとめるプロセスが必要である。
- ストーリーボードは初見の人にとっては理解しづらい。アウトプット、アウトカム、インパクトという整理は分かりやすいと思うが、マネジメントの面について、項目間の関係等を分かりやすく整理した方が良い

制度評価

- 成果の社会実装に対する障害や、それをクリアした方法等の情報を共有し、フィードバックする制度が整っているか、評価する必要がある。
- ヒアリング調査では、SIPの成果を各省庁の施策につなげる事に苦勞したPDの事例があった。府省連携やデータ連携など、社会実装への取り組みについて状況を把握し、制度上の問題点を検討する必要がある。



戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

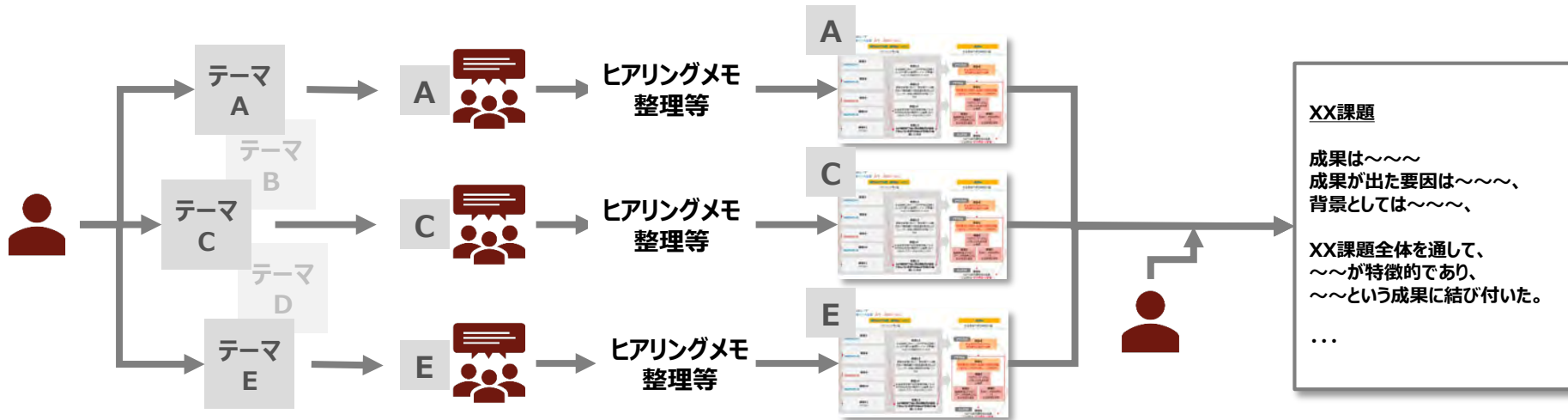
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

7. 次年度実施方針



次年度実施方針-課題評価実施フロー-案-

- ・ 3 課題に対して実施した試行の手順を、来年度 1 1 課題に拡張して実施
- ・ 今年度導出された問題点は、来年度の検討事項として留意



PDヒアリング①、主要テーマ選定
(課題ごと)

アンケート・ヒアリング
(テーマごと)

ストーリーボード
(テーマごと)

PDヒアリング②
(課題ごと)

ストーリー (課題ごと)
= **課題評価**

主要テーマ以外を選定する
方法については、改めて検討

アンケート調査の対象について、
今年度は項目 1～6 であったが、
項目 1～15 を対象と
することも検討

ストーリーボードについて
は、初見でも構造が理解
しやすいように構成を検討

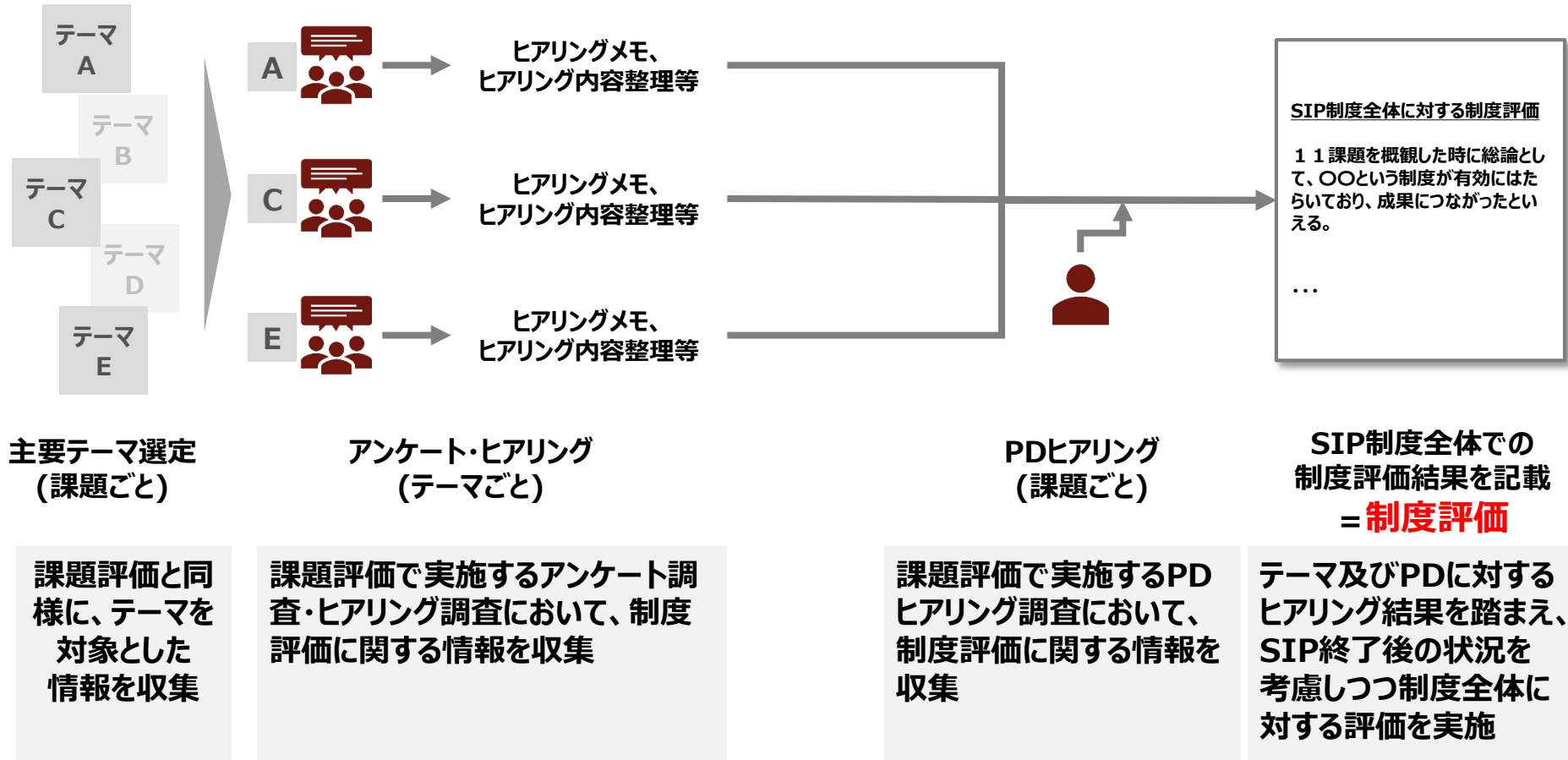
次年度実施方針-課題評価項目案-

・来年度の課題評価においても今年度と同様の15項目を用いることが有効

評価項目案		SIP期間中の情報	SIP期間終了後の情報
社会実装や研究開発の面	【項目1】	プロダクト・サービスの上市による社会実装の進捗	最終報告書作成等の情報
	【項目2】	協調領域におけるデータベース等提供による社会実装の進捗	
	【項目3】	社会インフラ提供等による社会実装の進捗	
	【項目4】	社会実装を目指す中での研究開発の進捗や成果	
	【項目5】	研究開発の学術的・技術的・政策的貢献 (論文などの学術的価値、人材育成等)	
	【項目6】	SIPでの研究開発等の活動による社会・経済構造への影響	
マネジメント等の面	【項目7】	社会情勢変化による周辺状況を確認あるいは把握していたか、また、何らかの対応をとったか	最終報告書作成等の情報 (+ヒアリング等で把握)
	【項目8】	(SIP期間開始時及びSIP期間終了直後のそれぞれにおいて) 社会実装に向けた目標設定に際し、十分に検討・議論を行って設定したか	
	【項目9】	社会実装に向けて、研究開発に係る方向性の再検討や修正が行われていたか	
	【項目10】	社会実装に向けて、マネジメント体制が構築され機能していたか	
	【項目11】	社会実装に向けて、研究テーマ間で連携やシナジーが発揮されるように取り組まれていたか	
	【項目12】	社会実装に向けて、SIP内や他の国家プロジェクト間での連携やシナジーが発揮されるような取組がされていたか	
	【項目13】	規制改革等に向けて、関係省庁への働きかけや関係省庁の担当者を巻き込んだコミュニティ・枠組み構築等を実施していたか	
	【項目14】	社会実装成果や研究開発成果について、対外的な発信や課題外への連携・協力に向けたアプローチは行われていたか(国際的な働きかけも含む)	
	【項目15】	SIP期間終了後に研究開発等が継続できるように体制や枠組みが整備され機能していたか	
			ヒアリング調査等で把握
			ヒアリング調査等で把握

次年度実施方針-制度評価実施フロー案-

基本的には、今年度試行と同様の方法で実施。課題評価を実施する中で制度評価に必要となる情報を収集し、SIP終了後の状況を考慮しつつ制度全体に対する評価を行う。



次年度実施方針-改善方策の提案-

課題評価に含まれる「改善方策の提案等」の導出プロセス

社会実装に向けた改善点については、「将来の科学技術・イノベーション政策の企画・立案への示唆導出」に反映させることも必要

課題評価

2021年度試行

成果の実用化・事業化の進捗の評価

情報収集

分析

評価

改善方策

- 1.社会実装への問題点と要因を分析
- 2.改善方法の検討
- 3.取り得る解決策を検討。課題側へフィードバック

制度評価

2021年度検討

制度の有効性等に関する評価

情報収集

分析

評価

将来の科学技術・イノベーション政策の企画・立案の示唆導出

- 1.社会実装に向けた改善点のうち、制度見直しに繋がるものを整理
- 2.改善方法の検討
- 3.制度見直しの方針を検討。次期SIPや他の国プロへの展開。



戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

8. まとめ



まとめ

○追跡評価の試行の前段階として、以下の点を検討

- ・**課題を特徴を明確化する観点**を設定し、試行対象となる3課題を選定
- ・上記観点を基に、評価の試行に向けた**評価項目案**を作成
- ・収集した情報の整理および**ストーリーボード作成**の方法を検討

○3課題に対し、追跡評価の試行を実施

- ・**エネルギーキャリア、次世代農林水産業、革新的構造材料**

○改善すべき点を試行から抽出し、次年度実施方針を策定

- ・今年度の追跡調査による試行の結果から、**来年度追跡評価にて活用すべきもの、改善すべきものを導出**